

	発行者の略号 書名	東書 新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～	学図 中学校 数学
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	・ICT で実現する新しい学び ・主体的・対話的で深い学びをサポート ・一人ひとりの学び方で確かな学力を ・教育課題に向き合う、寄り添う	・対話的な学びで確かな学力を ・ICT で確かな学力を ・つながる学びで確かな学力を
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①③学校生活や私生活で感じた疑問を数学を使って解決する題材を用意し、数学の有用性が実感できる。 ②生徒一人ひとりがコンテンツを利用しながら試行錯誤することで、思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度などの伸長が期待できる。	①「章のまとめの問題」では、基本、応用、活用の3つに分類し、習熟度に応じた確認ができ、章末や巻末の課題で個に応じて学力を伸ばせるように構成されている。 ②「説明する力をつけよう」では、他者にわかりやすく説明するためには、どのようなことが必要なのかを考える場面が設定されている。日常生活や社会の事象を数理的にとらえ、思考力・判断力・表現力等を育成できるように工夫されている。 ③「数学へのいざない」では、身のまわりのどのようなところで数学が役に立っているのか、数学史の中で数学がどのような発展をしてきたのかを知ること、数学の学習への意欲を高められるように構成されている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・「数学×仕事」では、仕事のなかで数学を活用している人を紹介し、次ページの活動で仕事を体験して数学の有用性を実感できるようにしている。 ・必ず身につけてほしい基本的な問題に「♡」マークをつけることで問題の重要度がわかり、学習の進め方を自ら考えて取り組むことができるようにしている。「クイックチェック」では学習内容を細かな単位で確認でき、早期につまずきを解消できるようにしている。	・巻末の「表現する力を身につけよう」において、自分の考えをまとめ、他者に伝える、発表のしかたや聴き方について考えることを通して、相手の立場を尊重する態度を考える場面が設定されている。 ・「ふりかえり」「確かめよう」「トライ」「章のまとめ問題」「深めよう」を設け、既習事項の確認や基礎的・基本的な知識や技能が習得できているか確認し、定着が図れるようになっている。
	（9）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①豊富なデジタルコンテンツが用意され、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びの実現など学習場面やねらいに応じた対応ができる。多くの章で「単元を貫く題材」を用い、学びが連続し、生徒が主体的に解決していく展開を工夫している。 ②「他教科リンク」では、他教科の教科書紙面が見られて教科横断的な学習での利用もできるようにしている。 ③考えを説明し伝え合う活動、ノートづくりやレポート作成などの各活動を充実させ、言語能力を高められるようにしている。 ④伝統・文化や環境・福祉・防災など数学の視点からSDGsの意識を高められるようにしている。都道府県ごとの紙面とデジタルマップを利用して、地域の題材を使った授業ができる。 ⑤「巻末紙教具」を使って観察、操作を行うことで、見方を深められるようにしている。 ⑥「数学の目でふり返ろう」では、小学校から高校までの学習内容を、数学的な見方・考え方でつないでいる。「学びのマップ」では、中学校3年間の学習内容を共通する考え方でまとめ、学年を超えたつながりを示して理解を深めている。 ⑦情報を取捨選択して解決する問題や、現実のデータを用いて傾向を分析する問題を多く取り上げ、情報活用能力を高められるようにしている。 ⑧生徒一人ひとりの特性に合わせた指導の個別化に対応できる問題構成にしている。豊富な問題を用意し、数学が苦手な生徒から得意な生徒までしっかりフォローできる。各学年の最初の章の節導入を「学び方のページ」とし、数学が得意でない生徒でも活動しやすいように簡単な計算できまりを見つけたり予想したりする活動を設けている。	①各単元のはじめに、疑問を発見するページを設定し、身のまわりの生活の中や数学の学習の中から主体的に疑問を発見し、問題解決に向けた話し合いができるように構成されている。 ②ばねののびとおもりの重さ(理科)、酢とサラダ油でフレンチドレッシングを作る問題(家庭科)、短距離走における時間と距離の関係(保健体育科)など、他教科と関連した課題が設定されている。 ③「表現する力を身につけよう」では、レポートの作成から発表までのポイントや例を提示し、よりよい伝え方や聴き方を身につけられるような場面が設定されている。 ④第1学年では伝統的な模様、第3学年では丸太から取れる角材など、伝統文化に触れられる題材が取り上げられている。 ⑤正負の数を学習できるカードゲーム、確率を学習できるさいころ、三平方の定理を証明できるパズルなど、体験的に学習できる教材が巻末に添付されている。 ⑥第1学年の「ふりかえり～算数から数学へ～」では、小学校で学習した内容が確認できるように構成されている。また、第3学年の「高校へのかけ橋」において、高等学校の内容と関連のある題材が取り上げられている。 ⑦授業に役立つデジタルコンテンツをインターネット上で活用できるように、二次元コードが掲載されている。 ⑧「ふりかえり」のページが設定され、既習事項を確認できるように構成されている。「トライ」や「Tea Break」「深めよう」「さらなる数学へ」で補充的・発展的な内容を設定し、実態に応じて学習が進められるように構成されている。
（イ） 教科・種目別の観点	（1）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②紙面にゆとりを持たせ、文字の大きさ、行間などは読みやすくわかりやすいように配慮している。 ③誰もが学びやすい教科書のユニバーサルデザインを実現し、多様な生徒の特性に対応できる学習者用デジタル教科書等を発行している。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③カラーユニバーサルデザインの観点を意識し、色だけでなく形でも判別できるように工夫されている。
	①数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①主に単元導入時に用意された動画コンテンツを活用し、問題を考えたり話し合ったりする活動の時間を確保して学習のねらいをつかみやすくしている。日常生活や社会の問題を解決したり、既習をもとにして数量や図形についての性質などを見出したりする数学的活動を通して、基礎的な内容からより深い知識や活用できる技能まで、幅広く身につけられるようにしている。	①単元ごとに基礎・基本が身についているか確認できるように「確かめよう」、「計算力を高めよう」が設定されている。詳しい解答を知りたいときには、二次元コードから見ることができ、自学自習ができるように構成されている。
	②言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。	②「深い学びのページ」では、側注の問題解決の過程に沿って、生徒が自ら考え、対話を通して考えを深める授業が展開できる。数学的な見方・考え方に価値を見出したり、発展的に考えたりする発問を用意している。	②単元ごとに「数学的活動」が設定されており、協働的な学習をもとに、主体的に問題発見から課題解決、さらに新たな問題を発見することができるように構成されている。また、章末には、振り返りや考えが深められるよう「できるようになったこと」「さらに学んでみたいこと」が設定されている。
	③不確定な事象を取り扱う中で、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	③日常生活や社会の問題をデータ資料から解決する活動を通して、統計的に問題解決する方法を理解し、データの傾向を読み取り批判的に考察し判断する力を養えるようにしている。	③「今の自分を知ろう」では、SDGsの17の目標に関連する題材が設定されている。データから傾向や問題点を捉え、自分たちにできることはないかを考える中で、判断する力が身につけられるよう構成されている。

	発行者の略号	教出	啓林館
	書名	中学数学	未来へひろがる数学
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「問い」をもって学び続ける子どもを育てる ・「問い」をもち、見方・考え方を働かせ学び合う ・数学のよさを実感することで、社会へつながる ・学びをつないで、確かな学力を育てる	・数学を学ぶ楽しさや意義を実感でき、質の高い学びを実現できる ・資質・能力をバランスよく育み、高めていくことができる ・これからの人生においても生きていくものなるように、「数学的な見方・考え方」を体得できる ・生徒自らが学びの過程をふり返って評価し、改善を図ることができる ・授業内だけでなく、多くの学びの場で生徒が使いたいくなる ・ICT の効果を学びにいかすことができる
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①同じ誤りを繰り返すことがないように、よく見られる誤りを取り上げ、誤りを正しく直したり、注目したりできるように構成されている。また、学習した知識・技能には、どんなよさがあるのかが、キャラクターの言葉で示されている。 ②重要な数学的な見方・考え方が使われている箇所の側注には、学習内容に沿った具体的な言葉を添え、数学的な考え方が明示されている。 ③「みんなで数学をはじめよう！」では、「問い」をもつための工夫がされ未来を創り出す力を育てようとしている。	①「例」と「例題」が設定され、基礎的な知識を段階的に学習していく内容と既習事項を利用して学習していく内容を区別して取り組めるよう構成されている。 ②「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」では、自分の考えを整理し、まとめて伝えたり、他者と自分の考えを比較して考えたりする場面が設定されている。 ③巻末の「学びのあしあと」では、学びの記録を残すことで、自らの学習を客観的に振り返ることができるように構成されている。また、巻末の「学びをいかそう」の「社会見学にいこう」では、生活や職業と関連する題材が取り上げられている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりして、自他の敬愛と協力を重んじる態度に触れる場面が設定されている。 ・本文の学習を進めるうえで、関連する既習内容を「もどって確認」で示し、基礎的・基本的内容を生徒自らが確認できるようにしている。	・「学びをいかそう」の「社会見学にいこう」では、職業と関連する題材が設定されている。 ・基礎的な知識・技能の確実な定着を図るために、計算や式の変形などが丁寧に示され、スモールステップでの学習が進められるよう構成されている。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①学びのプロセスのページでは、問題発見・解決の過程を生徒に意識づけられるようにすることにより、主体的・対話的で深い学びを展開できるようにしている。 ②時差(社会科)、記号や式の英語の読み方、数学用語の英語表記(英語科)など、他教科との関連深い場面が取り上げられている。 ③「みんなで数学をはじめよう！」では、学びのサイクルを意識させ、話し合いの大切さを示している。 ④教科書に登場する4人の生徒を通じて、多様性や異文化への理解を促している。 ⑤学習用デジタル教科書では、まなびリンクに加えて多数のシミュレーションを利用することができる。 ⑥「学びのマップ」では、小学校から中学校への学習内容の拡張が示されている。また、「ひろがる数学」では、中学校から高等学校へ学習内容がどのようにひろがっていくかが紹介されている。 ⑦動的な表現や3Dによる立体表現を活用できるようなデジタルコンテンツが用意されている。 ⑧インクルーシブ教育に向けて、ユニバーサルデザインの実現やカラーユニバーサルデザインへの対応をしている。式の計算や方程式では、系統性を考慮しながら易から難へと配列されている。また、巻末の「数学の広場」では、本文の学習をさらに発展させられるような課題が設けられている。	①「学習のとびら」の中には、QRコンテンツや言語活動のコーナー「説明しよう」「話しあおう」を配置している。 ②雷の音の速さ(理科)、ストリングアート(美術科)、ランドルト環・AED(保健体育科)など、他教科で学習する内容が取り上げられている。 ③「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」において、自分の考えを整理し、まとめて伝えたり、他者と自分の考えを比較して考えたりする場面が設けられている。 ④日本の伝統模様、さっさ立て、大矩、曲尺など、日本の伝統のよさを感じ取れるような題材が取り上げられている。 ⑤QRコンテンツを活用することで、体験活動の充実を図っている。 ⑥第1学年では、「学びをふりかえろう」において、速さ・道のり・時間、割合、小数、分数を扱い、学び直しができるように構成されている。また、「学びをいかそう」の「発展」において、高校数学につながる内容が取り上げられている。 ⑦QRコンテンツを活用することで、学習に役立つ情報を見ることができ、情報活用能力の育成を図っている。 ⑧QRコンテンツを活用することで、例、例題の解説動画を見たりICTを活用した復習問題を解いたりすることができる。与えられた問題をただ解くだけでなく、自ら問題を発見して解決し、解いた問題をさらに深める力をつけるために「ステップ方式」を取り入れている。
（イ） 教科・種目別の観点	（エ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③ユニバーサルデザインフォントを使用し、図においてはカラーユニバーサルデザインの工夫がされている。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③メディアユニバーサルデザインの観点を持ち、ユニバーサルデザインフォントを用いるなどの配慮がされている。
	①数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①章末の「学習のまとめ」では、各章の重要事項や解法がまとめられ、基礎的な知識や技能の習得の確認ができるよう構成され、「例題」「たしかめ」「問」「補充問題」と段階的に学習しながら力を身につけられるよう配慮されている。	①「学びをたしかめよう」では、単元内の基礎・基本の問題を配置し、知識・技能が身についたかどうかを確認できる工夫がされている。
	②言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。	②単元ごとの利用の課題では、課題を図や表を利用しながら「問題を見いだす」「問題をつかむ」「見通しを立てる」「問題を解決する」「ふり返る」「深める」と論理的に課題解決が図れるよう構成されている。	②自分の考えを表現し、わかりやすく他者に伝える場面を「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」として設定している。
	③不確定な事象を取り扱う中で、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	③複数の不確定な事象を扱い、目的を持ってデータを収集し、データ処理や傾向を読み取り、判断できるように構成され、第2学年の「データの分析」では、気象データの課題を多角的に考察できるような流れで構成されている。	③PPDAC サイクルが目に見える構成にすることにより、自然に PPDAC サイクルに沿って学習に取り組める工夫がされている。

	発行者の略号 書名	数研 これからの 数学	日文 中学数学
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	・基礎・基本が定着する ・数学的に考え説明する力を育む ・学びの楽しさが伝わる	・数学的に考え表現するための学び方をはっきり示す ・数学の楽しさやよさをしっかり感じられるようにする ・数学を生活や学習に活用するための力をきっちり築き上げる
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①基礎的・基本的な内容を、数学的活動を通して身に付けられるようになっている。自ら考え見いだすから、学んだ内容の理解度が高まる。 ②教科書紙面には生徒キャラクターが数多く登場している。対話を通して学習内容の理解を深めていく姿が見えることで、授業における問題解決のプロセス部分に焦点があたるようになっている。 ③新しい章に入る際には、生徒が自ら問いをもつことで、新しい内容の必要性を感じることができるように展開し、主体的な学びに誘導している。理想的な学び方に対する意識も高まるように、ガイダンスやチェックのページが充実している。	①例題にタイトルが掲載されており、きめ細かなステップで展開され、基礎的・基本的な内容が理解しやすく、そして復習しやすく構成されている。また、章の導入前に既習事項が確認できるような問題が設定されており、基礎的な知識の理解状況が確認できるように構成されている。 ②数学的に説明をする学習の初期段階では、穴埋め形式で説明を完成させる問題が設けられるなど、数学的な表現力が段階的に身につけられるように構成されている。 ③巻末の「SDGsと数学」や「数学を仕事に生かす」では、生活や社会の中で数学が重要な役割を担っている事例が紹介されている。また、章の終わりには、章の内容に関連した内容に関する「数学研究室」が設定されている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・「ふりかえり」、「確認問題」、「ぐんぐんのぼそう チャレンジ編」では、既習事項のふりかえりや基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力等を育むことができるよう構成されている。	・他者とのかかわりを通して多様なものの見方や考え方があることを理解し、助け合ったり高め合ったりできるような場面が設定されている。 ・各小節の「問」では、基礎的・基本的な内容が確実に定着できるような問題が設けられている。また、難易度が高い問題として側注に「チャレンジ」、基本的な問題として巻末に「補充問題」が設定されている。
	（9）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「Q」、「TRY」では、課題に取り組むプロセスがキャラクターの対話によって例示され、多様な意見を比較検討し、まとめていく場面が設定されている。 ②世界の各都市の標準時(社会科)、酢とオリーブオイルを混ぜてドレッシングを作る問題(技術・家庭科)、空気中を伝わる音の速さ(理科)などが取り上げられている。 ③「学習の進め方」や「ノートのつくり方」、「レポートを書こう」では、ノートやレポートの書き方、発表の仕方がわかるガイダンスページが設定されている。 ④第2学年では麻の葉模様・矢絣・青海波・市松模様・七宝模様、第3学年では和算が取り上げられている。 ⑤第1学年の作図では、定規などを用いて、条件を満たす位置を探す課題が設定されている。 ⑥「中学1年のまとめ」では、算数の内容をまとめて確認できるように構成されている。 ⑦関数では、表に値を入れるか式を入力するとグラフが表示され、図形では、特徴を観察しながら立体をグループ分けすることができ、データの活用の各領域では、教科書で扱われているデータがすでに入力されていて、表やグラフを即座に示すことができるなど、生徒が実際に操作しながら考察することができるデジタルコンテンツが設けられている。 ⑧章のはじめの「ふりかえり」では、その章の学びに関連する既習事項を振り返ることができ、このページに関連した内容が現れる箇所には「ふりかえり」の内容が掲載されている。「練習問題」、「確認問題」、「問題 A・B」、「学んだことを活用しよう」と段階的に学習に取り組めるよう構成されている。	①「見通しをもとう」、「考えよう」、「話し合おう」、「ふり返ろう」、「深めよう」の流れで主体的・対話的で深い学びを実現するための問題解決の過程が設定されている。 ②ビーカーの水を熱する問題(理科)、索引に英語表記が使われている(英語科)、データの収集方法の留意点(道徳)などが取り上げられている。 ③巻末の「数学レポートをかこう」では、数学的活動の過程を振り返り、レポートにまとめ発表することを通して、その結果を共有できるような内容が構成されている。 ④第1学年では伊能忠敬の測量、第2学年ではユークリッドなどの数学者の歴史が紹介されている。 ⑤データの活用では、PPDAC サイクル(問題→計画→データ→分析→結論)という統計的な問題解決の方法を体験する活動が設定されている。 ⑥第1学年の「算数の確かめ」では、小学校算数で学んだ内容を確認することができるように構成されている。また、高等学校で扱う学習内容には〈発展・高校数学〉マークが掲載されている。 ⑦プログラミング的思考が育まれるように、全学年に「プログラムと数学」が設定されている。 ⑧各章のはじめの「次の章を学ぶ前に」では、授業における生徒のつまづきを防ぐような内容が構成されている。「基本の問題」、「章の問題」、「やってみよう」、「とりくんでみよう」、巻末の「数学マイトライ」などでは、生徒個々の実情に応じて扱うことができる課題が設定されている。
（イ） 教科・種目別の観点	（1）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③ユニバーサルデザインフォントが全体的に使われるなど配慮されている。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③カラーユニバーサルデザインを使用するなど配慮がされている。
	①数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①第1学年で学ぶ作図では、手順どおりに作図できるようになることがゴールではなく、図形の性質と絡めて確かな知識となるように問いが設けられている。	①本時のめあてや例・問の意図を明確にすることで学びやすくし、基礎・基本が確実に身につくようになっている。各小節は原則として2ページ構成で、1時間の授業に対応し、流れがわかりやすい紙面になっている。
	②言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。	②「TRY1」、「TRY2」では、段階ごとに課題の難易度が上がることで論理的に考察できるような課題が設定されている。また、キャラクターの吹き出しには、課題解決における助言だけでなく、解決の過程の振り返りや考えを深められるような内容が掲載されている。	②初出の数学用語の理解や用語を正しく使ったり、根拠を示して説明したりする数学的な表現が身に付くような具体例が「表現の例」として示されている。また、「学び合おう」では、巻末の「対話シート」を用いて、数学を活用して問題解決する方法を理解するとともに、自分の考えを整理し、他者と考えを伝えあうことや、その過程や結果を振り返ることができるように構成されている。
	③不確定な事象を取り扱う中で、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	③第1学年では、気温の変化を主となる題材として、データ処理の方法や傾向の読み取りを順に身につけられるよう構成され、第2学年の箱ひげ図では、学習にスムーズに入れるようにするために、導入として小学生で学んだドットプロットを用いた課題が設定されている。	③第1学年では、ヒストグラムの見方を表に整理して具体的に示し、より良い話し合いができるように構成されている。また、第2学年では、範囲と四分位範囲それぞれの良さや違いを理解できるように、それぞれの特徴が表に整理され掲載されている。